

■今年の国語は！？

文法問題だけで大問が構成された。文法の割合が増える傾向になるのか…。

■出題形式

大問3問は変わらないが、例年大問③に出題されていた詩の読解が4年ぶりに姿を消し、文法問題となった。'16年度以前は詩の出題確率は半分程度であった。文法問題はごく一般的なもので、しっかりと準備した受験生であれば9割以上は取れるもの。そういう意味では過去の詩の出題と同様、大きく差がつく問題ではない。本校を受験する生徒は詩が出題される場合とされない場合の両方の可能性を考えて、詩の読解の練習をやりつつ、文法問題の練習をするのが望ましい。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	50分	50分	50分
大問数	3問	3問	3問
小問数	22問	16問	24問※
配点	120点	120点	120点
最高点	非公表	非公表	非公表
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 大問①の漢字15問は小問1問でカウント。大問③の文法問題9問は小問2問でカウント。

■出題内容

- ① 随筆文 『絵本から物語へ』 脇明子 3800字
- ② 物語文 『鯨』 岡本かの子 4800字
- ③ 文法問題

① 「絵本」の存在意義、読書の必要性についての脇明子氏によるエッセイ。読書の意義や現代の子どもたちをとりまく映像メディア、電子メディアの危険性について触れた文章である。今年は詩の出題はなかったものの、詩の読解に必要な想像力、思考力、メタ認知能力などを求めている文章から、本校の文学に対する姿勢がうかがえる。丁寧に読めば内容としては決して難解なものではないが、記述の各設問は十分に本文の内容を理解したうえでないと答えられない問題である。語句の意味など知識面の問題も、一般的なものより難易度が高いものが多く、より豊富で質の良い語彙力が求められる。

② 1939年に『文芸』に掲載された岡本かの子による古典的な物語文である。かなり古い文章だけに、場面の把握や語句の確認にとまどった受験生も多かったのではなかろうか。設問も「悲しい楽しさだった」「顔がかつとなって体に慄えが来た。だが不思議にも心はかえって安らかだった」など、単純な心情の説明ではなく、複雑なものを記述で説明させるかなり難易度が高いものである。これに加えて登場人物である母親の行動の理由を70字以内で説明するなど、内容を十分に理解したうえで時間内に答案を書き上げるのはかなりハードルが高い。

③ 文法問題。助動詞の使い方や識別に関する問題が5問、修飾語の係り受けを問う問題が4問出題された。文法問題としては極めてオーソドックスなもので、難易度は多少高めだが本校を志望する受験生であれば全問正解したい内容である。

■合格に向けての対策

本校の受験生に求められるのは、ワンランク上の読解力・語彙力です。小手先の国語力で対応できる設問は少なく、本文に対する十分な読解力、設問の把握力、豊富な語彙力が求められます。読書の習慣があるのは当然として、単に「楽しむ」だけのものではなく、「考える」読書をする必要があります。つまり、読み終えた後に「面白かった」「悲しかった」などの感想で終わるのではなく、「この物語で作者は自分に何を伝えたかったのだろう」と主題を考えるような読書が必要ということです。長年、詩の読解を出題してきた本校の入試問題に対する姿勢は、根本的には変わっていないとみるべきでしょう。また過去においては、古典的なものから現代のもの、あるいは海外の作品の翻訳ものなど、幅広いジャンルから出題されており、豊富な読書量が求められていることが窺えます。本年の随筆文は比較的わかりやすい内容でしたが、過去には逆説的なものや、一般的な視点からは気づかないものが主張されているものが多く出題されているので、普段の読解からこうした少し変わった視点から主張をする文章に慣れておく必要があると考えられます。例えば大問①の問九、「私は文字は読めても本が読めなかった」と同内容の部分を本文から40字で抜き出す問題などは、「文字が読めても本が読めない」とはどういうことなのかを理解していないと決して該当箇所を見つけ出すことができない問題です。しかも40字という指定があるだけに、かえって見つかりそうで見つからず、時間内に答えるにはかなり力がある問題だ。普段から文字面を追うだけの読み方ではなく、少し変わった表現が出てきたら、どういうことだろう？ どういう意味だろう？ と考えながら読む習慣を身に付けてください。今年はじめて独立した大問で出題された文法問題は、『かなめ』でしっかりと練習ができていれば十分に対応できるレベルです。漢字や文法問題で失点しないことは最低条件とし、ワンランク上の読解力・語彙力を身に付けておいてください。そのためには考える読書を実践すること、常に言葉に興味を持ちその意味や使い方を調べること、そして単に意味を知っているだけでなく、自分の頭の中にある事柄を適切な言葉で表現できる記述力を養う必要があります。

■今年の算数は！？

差がつく算数。

■出題形式

大問数は'14以降、7年連続で6問である。問題用紙はA3用紙1枚、解答用紙はA3用紙2枚。解答方式は、すべての問題に於いて、式や考え方を解答用紙に記入する記述式となっている。小問数は'18年度、昨年度('19年度)と同じ14問であった。例年並みである。形式面に於いて経年による大きな変化はない。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	50分	50分	50分
大問数	6問	6問	6問
小問数	14問	14問	14問
配点	120点	120点	120点
最高点	非公表	非公表	非公表
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

■出題内容

- ① 整数の性質 ② 割合 ③ 旅人算 ④ 時計算 ⑤ 規則性 ⑥ 比と平面図形

① (1) 差の約数から考える典型問題。今年度('20年度)は東大寺学園でも類似問題が出題されている。(2) 神戸女学院といえ、不定方程式。復活！ $1001=7 \times 11 \times 13$ は暗記しておくべし。 $176 \times A + 308 \times B = 4004$ の式を辺々44で割ると、 $4 \times A + 7 \times B = 91$ と変形でき、考えやすくなる。

② 消費税を扱った問題。消費税が8%→10%に変更されたため出題されている。(2)は、消費税率8%のときの消費税が732円以上733円未満、消費税率10%のときの消費税が916円以上917円未満として考える。消費税に関する定番問題。

③ 旅人算。2つの門P、Qの開閉の状態を調べて解く問題。ダイヤグラムを使って解く。(1)はすぐに解けて、平易。(2)は、門Pと門Qの開いている時間帯から遡って、門Qに到着した時刻を調べる問題。難易度自体は高くはないが、説明を記述するのが難しい。時間がかかりそうであれば、ダイヤグラム・式・答えを書いて、次に進むべき。最後まで解いてから、記述内容を充実させる方針が望ましい。ここで時間を使いすぎると、④以降の解きやすい問題をあわてて解かなければならなくなる。受験生の「判断力」を試す、差がつく一題。

④ 時計に関する問題。時計算(角速度)を含め、時計に関する問題は頻出。今年度は、「狂った時計」。このタイプの問題は、(1)はグラフ作成、もしくは比の書き出しで解く。(2)は(1)で求めた比を基に考えれば平易に解ける。確実に得点したい。

⑤ 規則性。A列の組の最後の数が「平方数」、B列の組の最後の数が「長方数」であることに注目して解きたい。(1)は平易。(2)①「完了」している各組に於いて、A列の合計とB列の合計の差が、組の数の2乗になっていること。②組と列がともに同じ場合、A列の数とB列の数の差が組の数になっている。この2点に注目すればスムーズに解ける。(3)は(1)と(2)をヒントに解くと15組までの総和から、15組までのA列の総和とB列の総和の差をもとに和差算を用いて解ける。ただし、B列15組最後の数である240を引くことに注意しなければならない。

⑥ 正六角形に関する問題。補助線を引いて「区切り面積」「等高図形」の考えを使って解き進める。方針さえ明確になれば、解きやすい問題ではある。

今年度入試での合格ラインは6割強と考えられる(受験者平均点等は公表されていない。合格最低点は249点/460点満点・得点率にして約54.1%)。神戸女学院といえば不定方程式が頻出であり、今年度は出題された。一方で同じく頻出である体積・表面積を求める問題が今年度はなかった。これは隔年現象と見てもよい。昨年度から従来の問題傾向が少し変わり、思考力を要する問題、手間のかかる問題が減り、全体的に解きやすくなっている。しかし、この方が標準偏差は高くなり、算数で得点差が開く。算数の得意な受験生にとっては、有利に働いたであろう。

■合格に向けての対策

近年は得点しやすい問題が多くあるためミスは許されなくなってきました。まず、神戸女学院の特徴としては、灘や甲陽と同様に作業(試行)から考察(思考)へと流れる「数の性質」、「規則性」からの出題が圧倒的に多いということです。特に「数の性質」の扱いに関しては十分になっておいてもらいたいところです。難関校の入試問題で練習する必要があります。「規則性」に関しては「数列」や「数表」の問題が、ほぼ毎年のように出題され、倍数判定を利用するものや周期性を見つけるものなどが多く見られます。次に多いのが「不定方程式」を利用して解く問題です。'02年度、'03年度、'05年度、'07年度、'09年度、'14年度、'16年度、'18年度、今年度に出題されています。与えられた条件を見抜き迅速に正確に処理することが要求されています。小学生で扱う不定方程式は答えが専ら整数となるものなので、数の性質の単元がしっかり扱えるかどうか勝負です。続いて多いのが「グラフ」に関する問題です。「読み」と「かき」の両方ができるようにしておきましょう。グラフを読ませる問題では「水量変化・水面上昇/下降」、「図形や点の移動」を扱う問題が多く、昨年度は点移動でした。影の長さを扱うものや速さの問題のように、ダイヤグラムをかくと迅速に解けるものが多いので、過去問演習等を通じて確実に得点できるようにしておきましょう。図形問題については、過去に頻出であった('02年度～'09年度のうち6年)複雑な立体図形の体積と表面積

神戸女学院中学部

に関する問題があります。落ち着いて立体を観察できれば決して難しくないが、計算が多くて複雑なため、ミスをしないように丁寧に一つ一つ求めていく必要があります。平面図形では、「比を利用して解く問題」と「図形の移動」の分野が頻出です。素材としては「正六角形」と「正方形・長方形の中に作る三角形の相似」です。前者については、正六角形の分割についての知識は十分に身につけること、後者については、的確な補助線の記入の練習をすることが要求されます。組み合わせ方に変化を持たせることで新鮮さを維持していますが、出題分野は限定されているので、過去問対策を徹底すれば確実な得点を期待できます。加えて幅広く入試問題を解いておきましょう。

なお、問題数は決して多くはありませんが、「50分で、すべての問題で求め方を書く」ことを考えると、スピードと高度な判断力が必要です。過去問演習をする際には、「答案を作る」ことを念頭に実施するようにしましょう。

■今年の理科は！？

過去問完成量に比例して得点上がる、いつもの記述・思考・計算地獄！

■出題形式

大問数や小問数は例年通りで変化がない。昨年度（'19年度）に突如なくなっていた神戸女学院名物の「生物正誤&選択問題」が今年度（'20年度）は復活した。記号選択9問、個数選択6問、用語解答5問、記述7問、計算9問、作図3問。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	7問	8問	8問
小問数	40問	40問	39問
配点	100点	100点	100点
最高点	非公表	非公表	非公表
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

特に記述，作図，思考において標準～発展レベルの技量を要するのも例年通りで，大問8問の解答案を45分で完成させるためには周知なトレーニングが必須である。

なお，教科別の最高点や平均点等は公開されていない。

■出題内容

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| 1 生物 総合正誤 | 2 生物 個数選択 |
| 3 生物 動物総合 記述 | 4 生物 植物の対照実験 |
| 5 総合 アンモナイトに関する知識と作図，環境 | 6 化学 気体の重さ |
| 7 化学 呼気と吸気の成分解析，二酸化炭素の性質 | |
| 8 物理 光（ピンホールを光が通過したときに関する計算，作図，思考） | |

- 1 人体，食物連鎖，代謝（呼吸と光合成）に関する正誤問題。基本知識が多く，例年に比べて易化した。
- 2 「さなぎになる昆虫が次の①～④の生物中に何個あるか」といったような，個数を答える問題。6問出題されたが，マニアックな知識も入っており全問正解は難しく，4問正解できれば有利といったところのレベルである。
- 3 メダカと人体に関する記述問題。解答欄が大きいのに加えて，かなり詳細に記述できる問題なので，不要な言葉をいかに書かず，必要な言葉を適切に用いるスキルが必要になる。
- 4 植物の成長に必要な条件を対照実験で調べている文章が書かれている。前後の文脈から，空欄に適する「行うべき対照実験」を記号で選ぶ問題。
- 5 Ⅰはアンモナイトに関する問題。知識がメインだが，ヒントとなる文章をもとにアンモナイトの断面を作図する問題も出題された。作図問題というよりはむしろ「読解問題」である。Ⅱでは地球温暖化に関する基本知識が問われた。
- 6 窒素，酸素，そして空気の重さや密度を用いた計算問題。数値が小数であり，計算ミスに気をつけたいところ。
- 7 はく息に含まれる二酸化炭素が石灰水を白くにごらせ，水に溶解すると酸性を示すという性質を問う基本知識問題。
- 8 Ⅰ，Ⅱと続けてストーリー性のある難問。Ⅰ(1)で光がピンホールを中心に上下左右反対の位置へ通過していることを相似計算で求めさせる。続く(2)ではその相似な図形が立体的になる。Ⅱ(1)ではピンホールで日食中の太陽を映し出すと上下左右が反対になり，さらに見る方向によって左右が反対になることが問われ，(2)でピンホールの数が増える。計算力，空間認識能力，読解力などが求められる。

■合格に向けての対策

- ① 基本知識問題と基本計算問題に関しては，ショートテストの α レベルで十分に対応できます。ただし，絶対に落としてはならない問題でもあり，夏休み明けまでには全単元ショートテストで90点以上を取れる実力を身につけておく必要があります。
- ② 作図問題と記述問題に関しては，数多くの過去問演習を行い，メンター（講師）に添削をしてもらい，一つひとつを確実に完成させていくことです。最低10年分は過去問に取り組み，神女理科の癖やパターンをつかんでください。過去問演習の開始時期についてはメンターに相談してください。奈良女子大学附属中や京都市立西京高校附属中学の過去問を類題として訓練を積むのも，一つの手段です。
- ③ 思考問題に関しては，「さすが最難関」と思える難問が毎年登場しています。これらの対策としては，洛星中・洛南高等学校附属中・東大寺学園中・大阪星光学院中・西大和学園中などの過去問を解き，適応力を養うことを推奨します。日進ウルトラに出題される同様の問題の完成も必須です。

■今年の社会は！？
元に戻った?問題数が多く、文章記述問題が復活!!データは古め…!!
■出題形式

大問数は5問で、昨年度（'19年度）より大問数は1問減った。'13年以来である。小問・枝問の問題数は78問(解答欄数)と昨年度より13問増えた。例年どおりの45分で80問前後を解かなければならないスピードが要求される。昨年度出されなかった文章記述問題が復活している。'13年度以来、難易度の高い正文選択問題出題されていない。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	8問	6問	5問
小問数	60問	40問	40問
配点	100	100	100
最高点	非公表	非公表	非公表
受験者平均点	非公表	非公表	非公表
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

■出題内容

- 1 地理（漁業・林業）
- 2 融合〔地理・歴史〕（2019年前半のできごと・時事問題をテーマにした出題）
- 3 歴史（伊藤博文をテーマにした出題）
- 4 歴史（4つの府県に関連した歴史をテーマにした出題）
- 5 公民（総合問題）

全体的な傾向として、3年前までの歴史偏重にもどっており、歴史は地理の倍の問題数であった。例年は大問ごとに地理・歴史・公民の各分野がはっきりと分かれているのだが、昨年度に引き続き融合問題が出されている。近年の傾向として、基本的な問題をしっかり押さえておけば合格ラインには到達できると思われる。散見される高校入試レベルの問題が、**2問13)**や**問42)**、**4問5)**、**5C・D・I**に出題されていたが、今年度（'20年度）は例年に比べ少なくなっている。しかし一時的な傾向と思われるため、油断は禁物である。

地理は、ほとんど標準レベルの問題である。**1問6)**は、普通は有明海沿岸の県を答えさせるが、地元を意識した問題になっている。**問7)**の文章記述問題は、問題文の「森林の働きに注目して」に違和感を覚えたかもしれないが、学んだ通りに書けばよい。**2問1)**は昨年に引き続き、サッカー大会が題材となっている。**3)(1)**の中央アジアの国々は高校入試でも出ないので、心配は無用である。**3)(2)**は、4大文明ぐらいい知っておいてほしいということであろう。難関女子校ではよく見られる世界の民族の生活や習慣に関する出題はなかった。過去に頻出の直線距離に関する問題は、今回も出されなかったが、来年度（'21年度）は要注意である。今後も日本・世界関係なく日頃から地図帳をくまなく見る習慣をつけてほしい。

歴史も地理と同じで、比較的取り組みやすい問題が多く、用語問題、記号問題に終始していた。文章選択問題も消去法で解ける。昨年度まで見られた大学入試レベルの語句は出題されなかった。空欄をうめる用語問題は、難易度は高くない。例年出される時代の古い順番にならべる問題は見られなかったが、来年は復活すると思われる。難問とした**2問42)**は、「歴史資料」に経路を示した地図が載っている。歴史は確実に取れるところを落とすと、合格ラインに到達するのは大変厳しいと思われる。

公民は、例年の正誤組み合わせ問題であるが、組み合わせパターンが昨年より1つ増えている。三権の問題は基本レベルである。**5C・D・I**の問題が高校入試レベルであるが、「アイヌ文化振興法」は中学入試ではよく見られる。「子どもの権利条約」は『自由自在』にのっており、また授業でも扱うので安心してほしい。社会保障制度や環境問題、国際政治や地域紛争に関心を持って学習しておいてほしい。

■合格に向けての対策

神戸女学院中学の対策としては、当然『古今東西』『地図帳』『歴史資料』『公民資料』『自由自在』の内容は確実に学習しなければなりません。様々な社会用語にも十分注意してもらいたいです。また、『日本のすがた』のグラフ・数値にも細かく注意を払って覚えていく必要があります。神戸女学院といえば、データで最新のものは扱わない傾向があり、学校の教科書の古いデータをもとに出題される場合が多いことから、小学校の教科書はしっかり目を通しておく必要があります。直前の世界地理対策は、地図帳の世界地図のところを毎日見ることと『自由自在』の精読が有効です。過去問演習時には、「解ける問題」「難しい問題」の選別眼を磨き、徹底して資料集や授業担当者への質問などを通して疑問点を解消していくことで知識の幅を広げていってください。ただ基本的な問題をしっかり解いていけば、合格ラインは十二分に到達できるので、あまり難問にとらわれず自信を持って本番に臨んでください。